令和４年４月２０日

令和４年度　武蔵野市立第二小学校　学校経営計画書

校長　松原　修

１　目指す学校

学校は、子どもたちの「笑顔」や「夢」があふれた場所でありたいと思います。その実現のために、全教職員が一丸となり、保護者・地域と連携の下、子どもたちの豊かな学びを創造していきます。

子どもたちの「笑顔」と「夢」があふれる学校

２　教育目標

自他の人権を尊重し、自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい未来の創り手となる児童を育てる。

○やさしく　　多様性を認め、尊重し合う児童
◎かしこく　　自ら学び、考え、行動する児童
○たくましく　これからの時代を生きる能力を身に付け、最後までやり遂げる児童

目指す子どもの姿	目指す教職員（学校）の姿
【多様性を認め、尊重し合う児童】 ・相手の立場を考え、行動する。 ・いじめはしない、見過ごさない。	**【居心地のよい学級・学校づくり】** ・命を大切にする心と規範意識を育てる。 ・体験活動を充実させ、他者と協働する力や思いやり等の人間性を育む。
【自ら学び、考え、行動する児童】 ・学習課題をつかみ、既習事項を生かして解決しようと努力する。 ・自分の得意を伸ばし、苦手に挑戦する。 ・将来に向かって、学び続ける。	**【常に学び合いよりよい授業を目指す教師】** ・意図的、計画的な授業を行う。 ・教材研究や校内研究を充実させ、児童に学ぶ楽しさや、学び方を習得させるとともに、児童の自信と意欲を育む。 （武蔵野市教育委員会調査研究協力校） ・常に子どもの姿による授業評価や授業改善を行う。
【これからの時代を生きる能力を身に付け、最後までやり遂げる児童】 ・休み時間は積極的に外遊びを行う。 ・体力向上に意欲的に取り組む。 ・自己の目標を決め、最後までやり抜く。	**【常に子どもと共に活動する教師】** ・子どもと共に過ごす時間を確保する。 ・心身の健康に努める。 ・自己の課題の克服に向けて努力する。

３　中期的目標と方策

（１）「やさしく　多様性を認め、尊重し合う児童」関連

①　人との違いやよさを認め、人を思いやる心情を育てる。

②　児童が多様な価値に気付くために、教育活動全体を通して道徳的実践の充実を図る。

③　思いやりの心やリーダー性を育成するために、異年齢集団の活動を意図的・計画的に行う。

④　教職員が児童に対して丁寧な言葉で話すことにより、言語環境の整備に努め、児童の人権意識・人権感覚を高める。

（２）「かしこく　自ら学び、考え、行動する児童」関連

①　一人一人の児童の実態を的確に把握し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行い、教員同士が学び合い、授業の質を高める。

②　問題解決的な学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、児童の思考力・判断力・表現力を育成する。

③　ＩＣＴ機器を最大限活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。

④　学習規律を定着させ、児童が集中して学ぶことのできる環境を作る。また、保護者と連携し学習習慣の確立を図る。

（３）「たくましく　これからの時代を生きる能力を身に付け、最後までやり遂げる児童」関連

①　セカンドスクール・プレセカンドスクール・移動教室・遠足などを通して、自然に親しみ、体験的活動や規律ある生活、集団活動を経験させ、たくましい心と体を育てる。

②　地域協力者の支援を得ながら、地元の自然・文化・施設を活用し、環境保全、自然愛護、地域の一員としての自覚、人との触れ合いを大切にする心などを育む。

４　令和３年度の課題（令和３年度　学校評価報告書より抜粋）

項目	重点目標	改善策・対応策
確かな学力	指導計画に則った意図的、計画的な授業	・感染症対策もあり、対話的な授業については、十分にできなかった面もある。 ・自分の考えを口頭で伝えたり発表したりすることに苦手意識をもつ児童は多い。ICT を活用した表現方法も工夫していく必要がある。 ・武蔵野市民科については、継続して取り組める単元を開発していく必要がある。
	ＩＣＴ機器の有効活用 家庭学習	・学習者用コンピュータのより効果的な活用法を確立するため、指導計画を充実させる。 ・保護者と連携し、「二小タブレット使用ルール」を定着させる。
豊かな心	挨拶、二小のきまり・やくそく 正しい生活習慣	・保護者アンケートでは高い評価をいただいているが、児童の個人差は大きく、継続して指導していく必要がある。 ・生活リズム表の活用について、検討する。
	友達のよさを認め、互いに思いやりのある言葉をかけ合えるような指導	・保護者アンケートでは高い評価をいただいているが、児童の個人差は大きく、「なかよしグループ」による異年齢集団活動や道徳科の授業を充実させるなど、継続して指導していく必要がある。
	いじめの未然防止、早期発見・対応・解決	・児童は、概ね安心して学校生活を送っているが、保護者アンケートでは、肯定的評価が 65.4%と、他の項目に比べ低くなっている。「わからない」という回答が 26.2%あったため、学校の取組を、より積極的に周知していく必要がある。
健やかな体	運動に親しむ態度・体力の向上	・体力テストは、反復横跳びや握力に課題が見られた。感染症対策のため、体育的な活動の制限は多いが、今後の指導に生かしていく。
	安全指導や避難訓練、各学年の防災訓練	・保護者アンケートでは高い評価をいただいているが、気を緩めることなく引き続き指導を徹底していく。
保護者・地域との連携	各種たよりやホームページ等を活用した情報発信	・本来であれば、学校公開等で、保護者に直接教育活動を見ていただきたい。コロナ禍が継続する場合は、分散による授業参観等を積極的に行っていく。
	新型コロナウイルス感染症対策	・感染症対策も長期化しており、慣れが見られる児童と、逆に、極度に不安を感じている児童がいる。児童の不安を煽ることなく、引き続き感染症対策を行っていく。

https://dai2-e.musashino-city.ed.jp/modules/ictea_base/include/js/ckeditor/kcfinder/upload/files/20220331113248.pdf

５　今年度の重点目標と方策

（１）豊かな心の育成

①　児童が、友達のよさを認め、互いに思いやりのある言葉をかけ合えるような指導を行います。そのために、私たち教職員も子どもたちのよさを認め、励ます声かけを心がけます。（全）

②　問題解決的な学習や体験的な活動を適切に取り入れる等、特別の教科道徳の授業を改善し、考える道徳、議論する道徳を実践します。家庭でも道徳の授業について話題にしていただくために、学年便り等に「資料名」を記載します。（担任）

③　新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、「なかよしグループ」による異年齢集団活動を実施します。（特活）

④　９月の「いじめ防止重点月間」や年３回の「ふれあい月間」に行うアンケート調査、都のスクールカウンセラー及び市の派遣相談員を活用し、子どもたちの様子を把握するとともに、いじめや不登校などの諸課題の未然防止、早期発見・対応・解決に取り組み、取組内容を保護者に報告します。（生活指導）
⑤　授業のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、こぶし教室や個別支援教室（ステップルーム）、学習支援教室（まなべえ）を活用し、一人一人の子どものよさを伸ばし、個に応じた指導・特別支援教育を推進します。（特支ＣＤ）
⑥　落ち着いた学校生活を送れるよう、二小のきまり・やくそくを守り、静かで丁寧な清掃活動を行います。（全）
⑦　生活指導夕会で共通理解を図り、組織的な対応を推進します。（全）

（２）確かな学力の育成
①　指導計画に則った意図的、計画的な授業を行うとともに、授業時数の管理を適切に行います。講師を活用し、教科担任制に取り組みます。（全）
②　武蔵野市民科の学習を工夫し、継続して取り組める単元開発を行うとともに、自立、協働、社会参画に関する資質・能力を育みます。（高学年担任）
③　ＩＣＴ機器を有効に活用できる指導計画を充実させ、効果的な授業や家庭学習を実現します。（ＩＣＴ・全）
④　教員は、お互いに授業を参観したり、ＯＪＴ研修を行ったりして、指導力の向上に努めます。（全）
⑤　校内研究では「算数」に取り組み、子どもたちに考える楽しさを味わわせ、思考力を高めます。（研推）
⑥　ＡＬＴや学習指導補助員、理科の授業パートナーや観察アシスタント、学校図書館サポーター等、様々な方々と連携を図り、授業の質を高めていきます。
⑦　学習前に学習に必要な物を準備する・「はい」と返事をして、立って答える・みんなに聞こえる声で発表する・話している人を意識して話を聞く・など二小のきまり・やくそくを徹底し、学習規律や学習習慣を確立します。また、保護者と連携し、「二小タブレット使用ルール」の定着を図ります。（担任・全）
⑧　学校行事は、日頃の学習の成果を発表する場とします。行事に向けた指導は、指導時間・内容を十分吟味し、計画的・継続的に行います。（体育的・学芸的）

（３）健やかな体の育成
①　新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、体育の授業や体育朝会、体育的行事、二小オリンピックや中休み等の外遊びの奨励等、運動に親しむ態度を養い、体力の向上（本校の課題は反復横跳び・握力）に努めます。また、教員も休み時間はできるだけ子どもと一緒に遊ぶように努めます。（体育的・全）
②　市の栄養士による給食指導や食に関する指導・取組を通して、感染症対策を徹底するとともに、正しい食事のルールやマナーを定着させます。また、食物アレルギーへの適切な対応を徹底します。（給食担当）
③　安全指導や避難訓練、各学年の防災訓練（低学年：煙体験、３年：起震車、４年：初期消火訓練、５年：外部講師による着衣泳、６年：ＡＥＤ体験）等を通して、自助・共助の意識や態度を育みます。（生活指導・全）
④　生活リズム表の効果的な活用について、検討します。（生活指導）

（４）保護者・地域との連携

① 保護者や地域の協力者の支援を得て、校外学習や地域学習を推進します。

② 児童に対して地域行事への参加を促し、地域との関わりを深めます。

③ 各種たよりやホームページ等を活用することにより、積極的かつ安定的に情報発信し、地域に開かれた学校を作ります。(全)

・ホームページは、各学年が子どもの様子を月４回以上発信します。

・学校だよりは、本校の教育活動や子どもの姿が見えるものにしていきます。

④ 開かれた学校づくり協議会や学校評価アンケートの意見を真摯に受け止め、教育活動の改善充実を図ります。

⑤ あそべえや学童クラブとの連携を図り、児童の健全育成に努めます。

（５）働き方改革の推進

① 『Something New』を常に心がけ、前年度の課題、今年度の工夫、起案者の思いを教育活動の改善に生かします。

② 週に１日は定時退勤日を設定します。また、午後の出張は帰校しないように努めます。遅くても２０時退勤に努めます。(全)

③ 保護者が記入する様式等はできるだけホームページに公開するなどデジタル化を推進します。それに伴い書式を見直し、はんこレスを進めます。(ICT)

（６）１５０周年に向けて

① 令和５年度に迎える開校１５０周年に向け、保護者・地域、同窓生の協力を得ながら、準備を進めます。(周年)

② 各種たよりやホームページ等を活用し、二小の地域や歴史について発信していきます。(周年・全)

（７）その他

① 校内ＯＪＴを推進します。(ＯＪＴ担当、主幹、主任)

・ 主幹教諭は､主任教諭のＯＪＴを行い､主任教諭を学校運営に生かします。

・ 主任教諭は、学校運営への積極的な参画、若手教員の育成、主幹教諭の補佐を行います。

② 服務の厳正（全）

・ 信頼される学校づくりのために教職員一人一人が教育公務員としての自覚と高い倫理観をもち、服務の厳正に努めます。体罰は絶対に行いません。

・ＩＣＴを活用し、無駄を省き、教育効果を常に検証します。

・ 学校予算は、計画的かつ効果的に執行します。

・ 私費会計は､「武蔵野市立学校の学校徴収金事務取扱の手引」に従い、保護者の負担がより適正になるよう、計画的かつ効率的に執行します。

６ おわりに

学習指導要領がかわり、教員の働き方改革が叫ばれ、新型コロナウイルス感染症の対応のため、これまでの教育活動を見直さなければならない今は、学校にとって大きなピンチであり、学校が変わる大きなチャンスです。

「Chance、Challenge、Change」とよく言われますが、私たちはさらに「Creative」に取り組んでいきます。